

上田探検隊

～上田ってどんなまち？～

まちを可視化し魅力と課題を探る

2020年1月11日

信州上田学（前川クラス）2019

上田のまちを歩き・捉え・伝える

知る

上田ってどんなまち？
見聞し自分の視点で捉える

理解する

まちを可視化する
(ネットに発信し共有)



価値づけ

魅力と課題を探る

学び方Tips: ぶらぶら歩く

あれ何だろう？

そう思ったら
撮る！

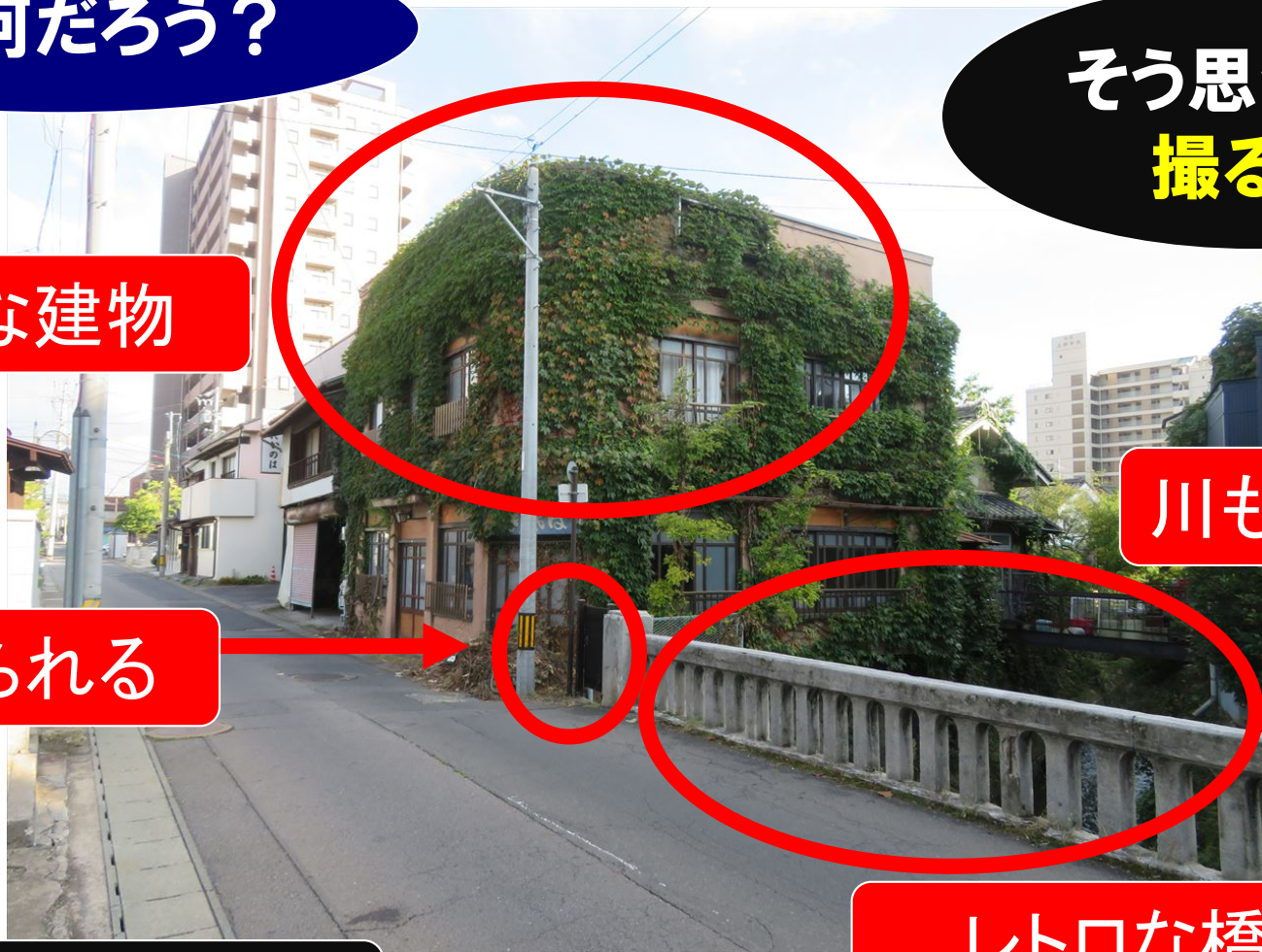
レトロな建物

川もある！

下りられる

レトロな橋

川の左側はない！



今と昔を比べて今を捉える

蚕都上田

市街図

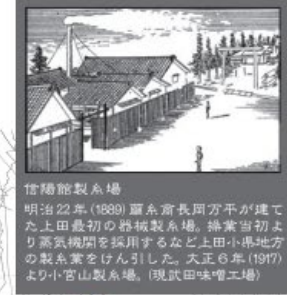
歴史・文化財マップ

<http://www.santo-ueda.jp/>

真田氏の城下町であった上田市は、北国街道の宿場町でもあった。呉服屋などの有力な商家や繭糸商が海野町、原町、柳町などに軒を連ねていた。江戸時代後期以降の蚕種業、製糸業の発展によって、市制を施行した上田市(1919年～)は、蚕都と呼ばれるようになった。市街地の周りには製糸業を営む常田製糸場、小宮山製糸場、長峯製糸場など7つの工場や上田蚕種株式会社、小泉蚕業学校、上田蚕糸専門学校が立地していた。また上田駅前には上田倉庫(諏訪倉庫)、上田城址には長野県蚕業試験場上田支場があった。さらに第十九国立銀行をはじめ、信濃銀行(上田銀行)など蚕糸業を支えた多くの銀行が立地していた。これらの銀行は製糸家や繭糸商、有力商人によって支えられていた。民衆のための娯楽施設が数多く建てられ、市街地と養蚕や製糸業の盛んな埴田、丸子、真田を結ぶ鉄道の開設により、市街住民だけでなく製糸女工など近郊から訪れる多くの人々で賑わった。



生糸繭商 田中忠七
「萬忠」の名で知られた繭糸商。その財力で「大神宮」を寄進した。



信陽館製糸場
明治22年(1889) 繭糸商長岡万平が建てた上田最初の機械製糸場。採集当初より高気機関を採用するなど上田小泉地方の製糸業をけん引した。大正6年(1917)より小宮山製糸場。(現武田味噌工場)



現存

春養国神社(大見神社) 春養の守護神・種彦堂神主

現存



昔ここには
何があったのか
スマホを使い現地で
90年前と比較

ネット公開の「蚕都上田マップ」(1928年の上田)→スマホで参照

<https://www.mmdb.net/silknet/archive/ueda/page/A0139.html>

《信州デジタルコモンズ》 知識循環型 地域学習

信州デジタルコモンズ試作版・参加型アーカイブ
ネット上の本棚「上田まちなか探検」に棚上げ



ネット上で地域や学校の
境界を越えて共有

上田市内の
地域学習に
活用をおすすめ

探検先エリア1～7

探検隊(1～12班)が7エリアのいずれかを探検



学生が捉えた上田のまちをネット公開



信州上田学(前川クラス)2019

上田探検隊 まちなか編

<http://mmdb.net/uetan/>

